

第 3 期中期目標期間（4 年目終了時）の教育研究評価の検証状況

大学改革支援・学位授与機構では、第 3 期中期目標期間（4 年目終了時）の教育研究の状況についての評価（以下、「4 年目終了時評価」という。）に関し、今後の評価方法の継続的な改善に活用するため、すべての評価者及び国立大学法人等（以下、「法人」という。）に対し、アンケート調査を実施した。

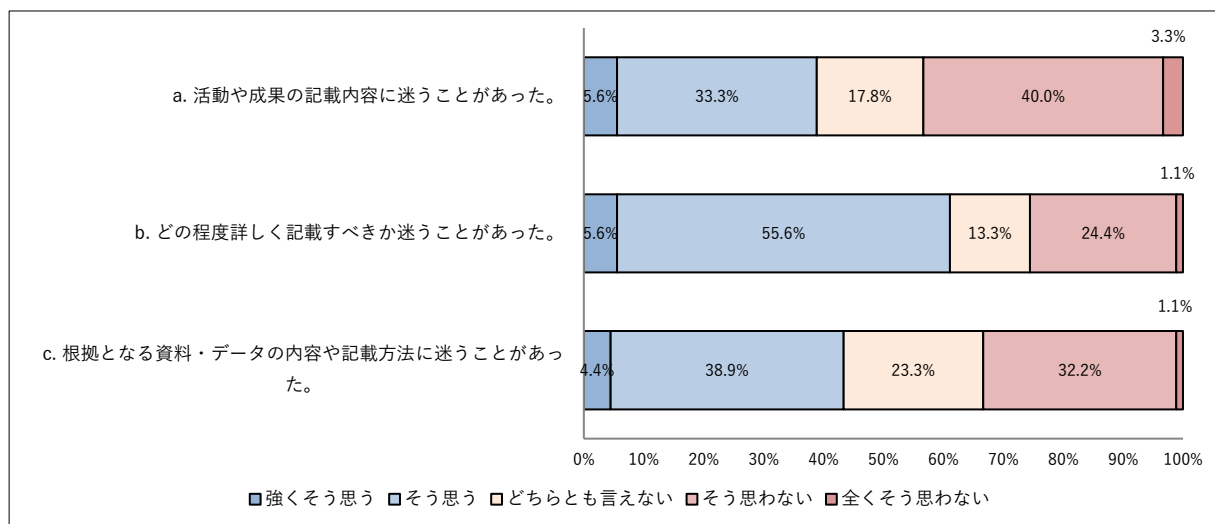
これらのアンケート結果については、4 年目終了時評価の評価方法や評価結果も含めて検証中であり、次期の評価方法等の制度設計に向けて、令和 4 年 3 月に検証結果報告書として公表する予定としている。本紙では、アンケート結果の中から、第 3 期中期目標期間終了時評価（以下、「終了時評価」という。）に関連する主な内容を整理している。

<終了時評価に関連するアンケート結果>

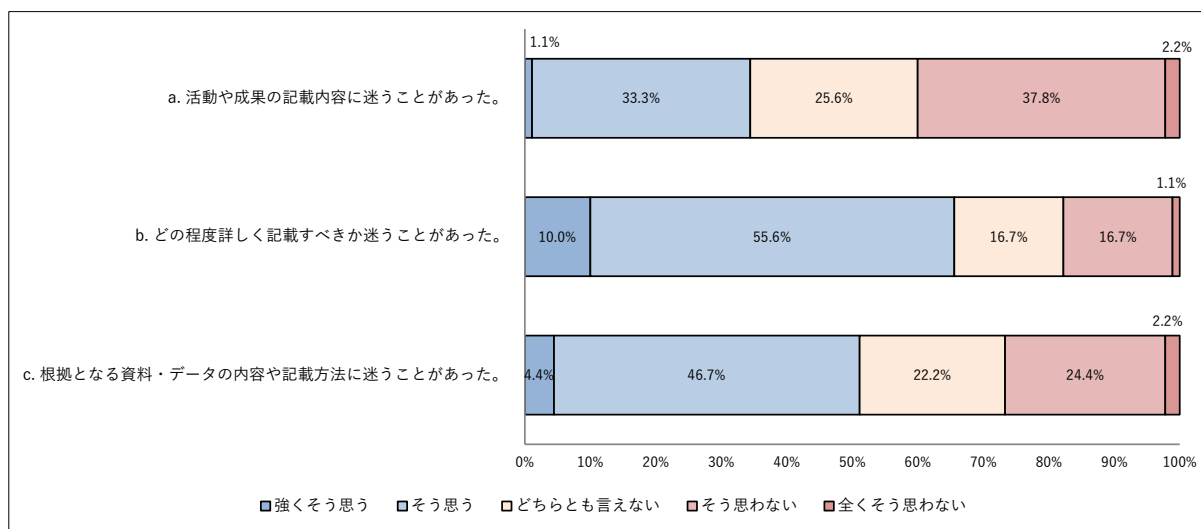
【国立大学法人等が作成する達成状況報告書に関する意見】

- ◆ 以下の図 1 は、達成状況報告書の具体的な記載内容や根拠データ・資料についての質問 a. ～c. に対する法人からの回答状況となっている。a. 及び c. の問題点に対し、「強くそう思う」または「そう思う」が全体の 4 割程度、b. の問題点に対しては「強くそう思う」または「そう思う」が全体の 6 割程度となっている。この回答傾向は、第 2 期中期目標期間評価（以下、「前期」という。）のアンケート結果とあまり変わっていないことを示している。

<図 1 達成状況報告書の具体的な記載内容や根拠データ・資料に関する法人からの回答状況>
【第 3 期中期目標期間の 4 年目終了時評価】



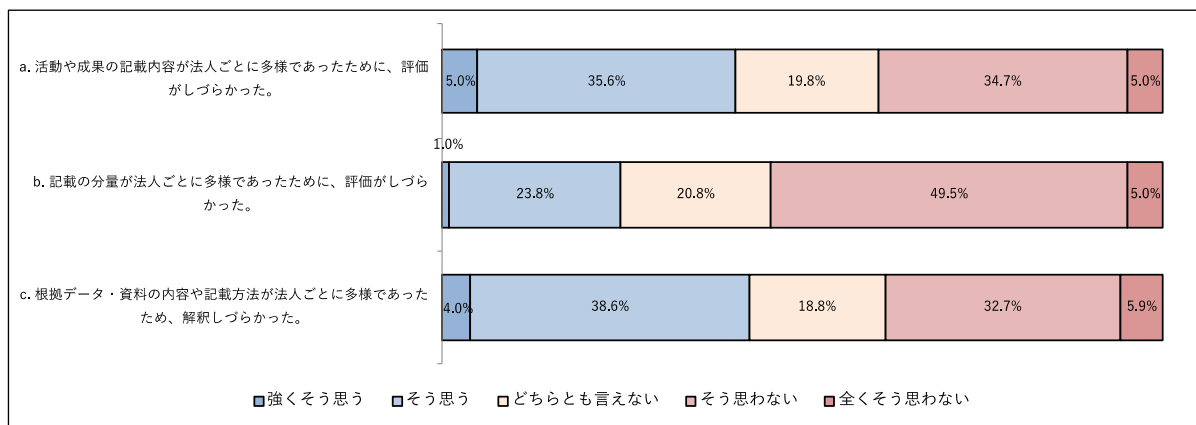
【参考：第2期中期目標期間評価】



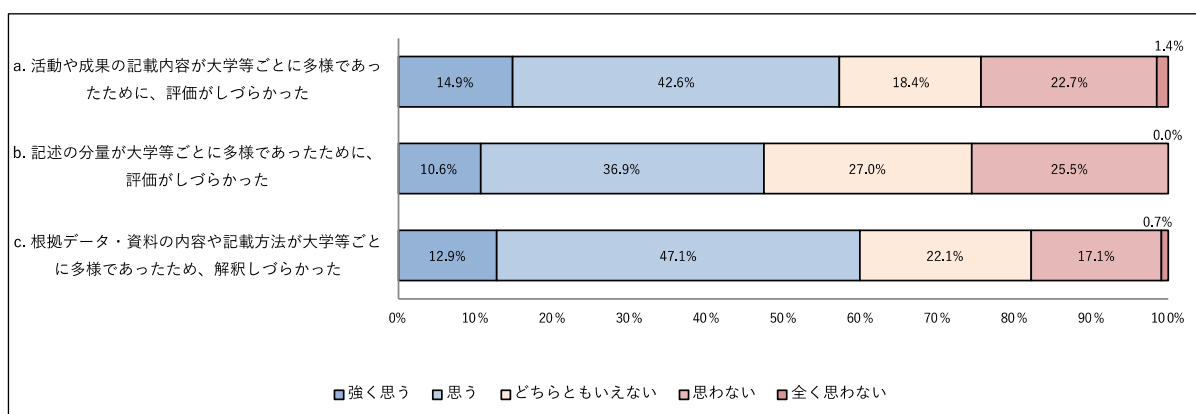
◆ 以下の図2は、達成状況報告書の具体的な記載内容についての質問 a. ～c. に対する評価者からの回答状況となっている。a. 及び c. の問題点に対し、「強く思う」または「そう思う」が全体の4割程度、b. の問題点に対しては「強く思う」または「そう思う」が全体の2割強となっている。この回答は、前期のアンケート結果からの改善傾向を示している。

<図2 達成状況報告書の具体的な記載内容に関する評価者からの回答状況>

【第3期中期目標期間の4年目終了時評価】



【参考：第2期中期目標期間評価】



- ◆ 4年目終了時評価では、具体的な中期目標（小項目）の評価を重視したことに伴い、達成状況報告書の様式を変更しているが、その対応に苦慮したなどの意見がアンケート自由記述に寄せられている。

（例）小項目の総括、中期計画の実施状況、「小項目の達成に向けて得られた実績」の書き分け、特に、1小項目、1中期計画の場合の書き分けが難しかった。＜法人より＞

（例）小項目ごとの総括や小項目の達成に向けて得られた実績を、そのような内容をどのように記載するか、どの程度まで詳細に記載すべきか十分に理解できないまま作成した。記載の指針（記載しないでほしい事項、おおよその文字数を含む）がより具体的に示されていると、余計なことに悩まずに作成作業ができると思う。＜法人より＞

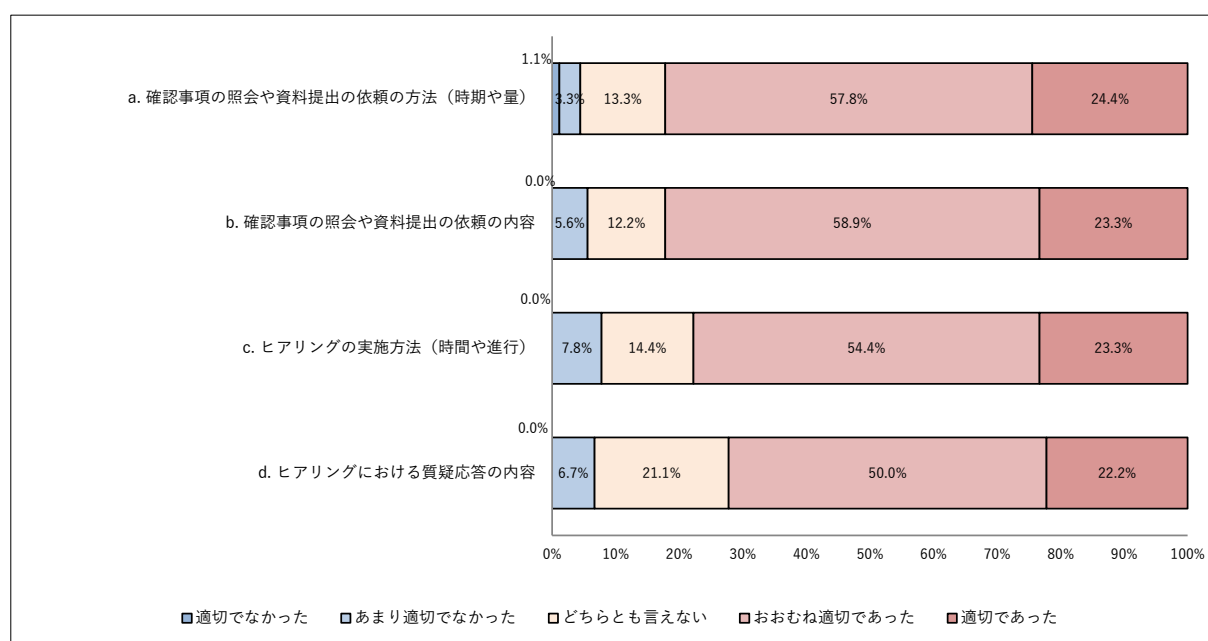
（例）読むのに時間がかかったが、それぞれの大学が熱心に達成状況を記述していることには敬意を表したい。ただ、そのために時間を取られ過ぎないように、教育研究の本務に差しさわりのない範囲にしてあげたいと感じました。＜評価者より＞

【ヒアリングに関する意見】

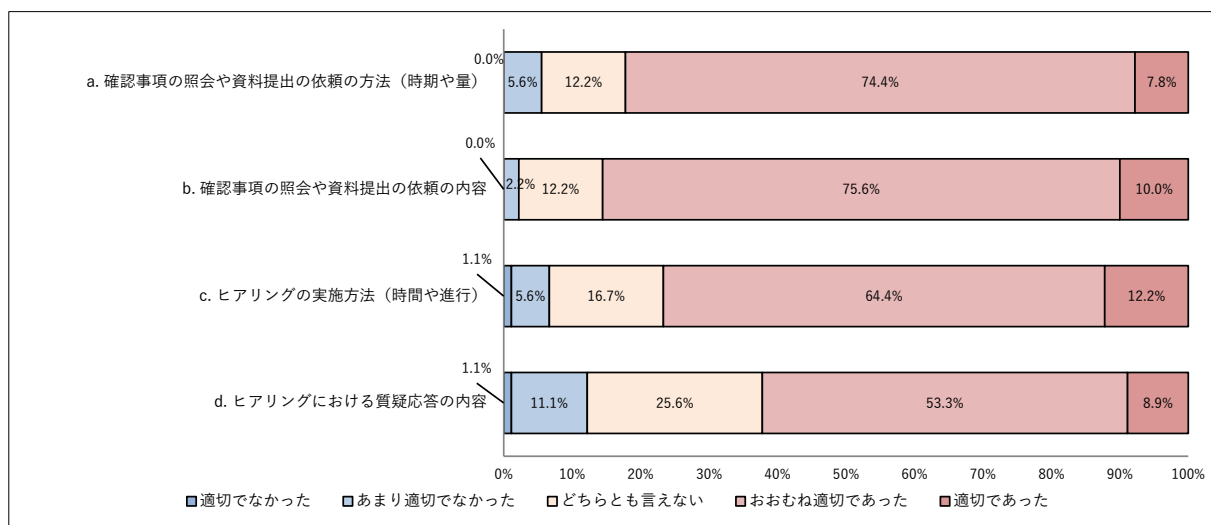
- ◆ 以下の図3は、確認事項の照会・ヒアリングについての質問 a.～d. に対する法人からの回答状況となっている。「適切であった」と「おおむね適切であった」の回答が8割程度と高く、前期のアンケート結果と同様の傾向を示している。

<図3 確認事項の照会・ヒアリングに関する法人からの回答状況>

【第3期中期目標期間の4年目終了時評価】



【参考：第2期中期目標期間評価】

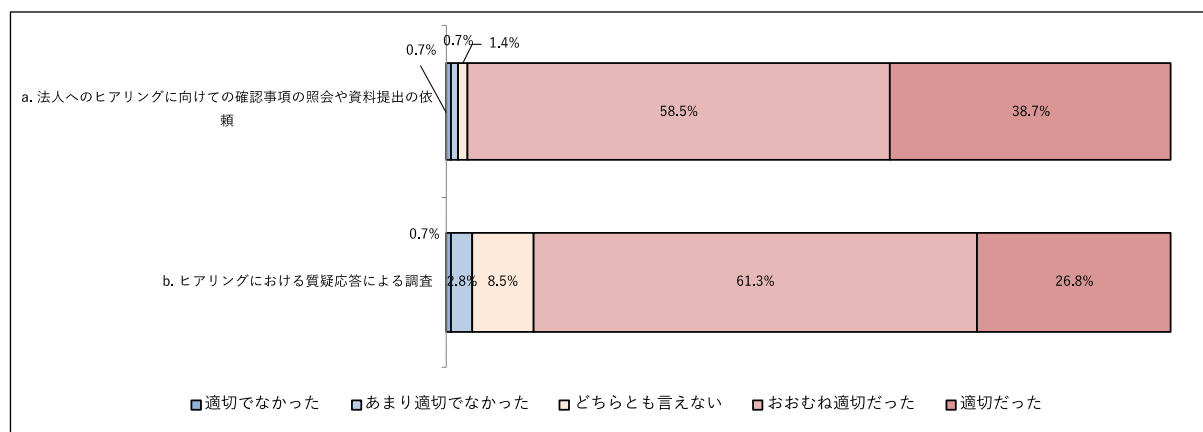


- ◆ ヒアリングについては、実施方法などの意見がアンケート自由記述に寄せられている。
- （例）確認事項のみで全ての確認がとれた大学に対しては、その後のヒアリングは行わなくてもよいのではないか。（ヒアリングでないと確認ができない大学のみを対象に、ヒアリングを実施してもよいのではないか。）＜法人より＞
- （例）自己評価を下げるような評価を行う計画については、必ず質疑応答で実態を把握するなど、慎重にヒアリングを実施してほしかった。＜法人より＞
- （例）今回の原則としてオンラインの取組みは、東京の本部から遠隔地に本拠を持つ評価委員が長時間の出張をしなくてもよいというメリットを確認することにもなったと思います。そこで、ポストコロナの段階にあっても、対面とオンラインのハイブリッド型の会議を生かす方向性もあるのではないかと思います。＜評価者より＞

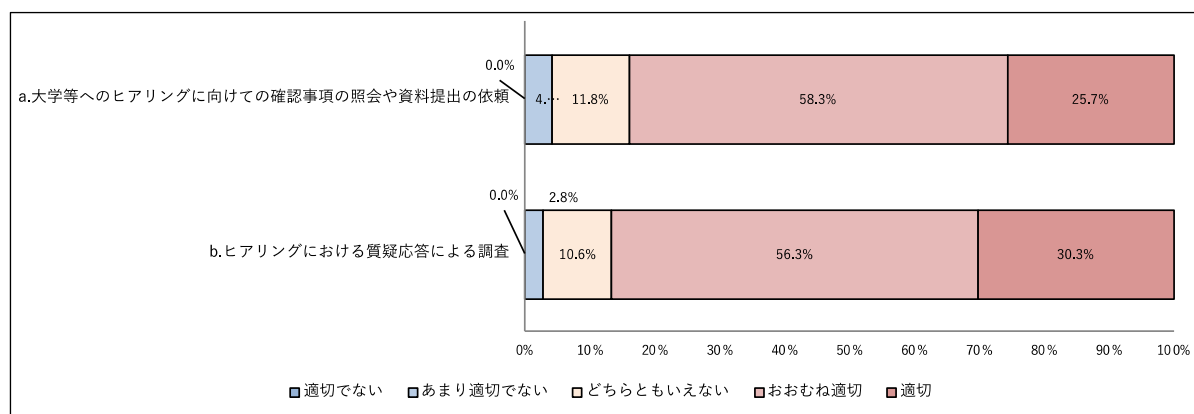
- ◆ 以下の図4は、ヒアリングについての質問 a. ～b. に対する評価者からの回答状況となっている。そのうち、質問 a. (法人へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼) については、前期のアンケート結果からの改善傾向を示している。

<図4 ヒアリングに関する評価者からの回答状況>

【第3期中期目標期間の4年目終了時評価】



【第2期中期目標期間評価】



【意見申立てへの対応に関する意見】

- ◆ 法人からの意見申立てへの対応に関しては、より具体的な判断根拠を示してほしいなどの意見がアンケート自由記述に寄せられている。

(例) もう少し、内容に踏み込んで、例えば回答された「優れた点とまでは言えない」についてはどのような根拠からそのような回答となったのかをお示し頂きたい。

(例) 意見の申立ての結果について、より具体的な判断根拠を示していただくと、法人運営のPDCAサイクルに繋がります。

<参考：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の年度計画（令和3年度）抜粋>

（２）国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究の状況についての評価

ア （略）

イ 4年目終了時評価の検証を行うとともに、第3期中期目標期間終了時評価に向けて、評価方法を確定し、評価実施体制やシステム関連等の整備を行う。また、法人及び評価者に対して説明会等を実施する。